

## 株式会社果実堂ファーム事業説明

### 【有機ベビーリーフ生産事業】

自社圃場作付面積：336a（ハウス面積200a）

#### 品種

アブラナ科	ミズナ・ピノグリーン・アジアホワイト・レッドアジアマスタード・ルッコラ・ブラックサマー・レッドチヨイ	7種類
キク科	ロメインレタス・オークリーフ・ロコロッサ・エンダイブ・チコリー・シュンギク・シンチュウ	7種類
アカザ科	デトロイトビート・ハウレンソウ	2種類
ヒユ科	アマランサス	1種類

#### ベビーリーフの生産について

播種から30日前後で幼い葉っぱを摘み取るベビーリーフは連日播種、刈り取りを繰り返します  
その為、ビニールハウスは常に稼働していることとなります。

#### 栽培の特徴

- ・有機JASの認定を受けていますので除草剤、農薬、化学肥料は一切使用しません。
- ・虫は、ハウス内に侵入しないように防虫ネットを張り巡らせ、万一多発した場合は草焼きバーナーで根絶やしにします。
- ・除草は黒マルチで抑制する以外は全て手作業で抜きます。
- ・異なる科目を輪作することで連作障害を防ぎます。
- ・厳冬期は播種密度を調整し、風通しを良くすることで病気を防ぎます

#### 果実堂ファームのこだわり

- ・新品種を常に播種し、新しいベビーリーフのミックスを模索する。
- ・自然農法に近い生産方式を行いながら管理はJAS法に基づく記録を残しています。生産行程を毎日作業終了後記録しデータをパソコン入力しこれまでの履歴をすべて蓄えています。
- ・トレーサビリティ(生産履歴)をいつでも提示できるよう刈り取った商品に全て「いつ、誰が、何を、何キロ、どの圃場の、何番のハウスで刈り取ったのか」を記録するように義務付けています。
- ・ベビーリーフの大規模生産農場を目指し、機械化を進めています。(一次選別機の開発及び導入)
- ・パッキング、販売を株式会社果実堂に委託することで生産に集中できます。
- ・従業員が将来独立して農業を営めるよう指導しています。

#### 今後の取り組み

- ・グローバルGAP(適正農業規範)の導入により生産行程の効率化、環境への配慮、従業員の安全確保等強化する。
- ・地域の生産者、農業生産法人との連携を深め地域活性化に努める。
- ・遊休地を積極的に利用し、地域農業の振興に努める。
- ・自社生産だけでなく生産委託を行うことで近隣農家の協力を仰ぐ。
- ・ベビーリーフ以外の野菜生産にも取り組み新しい商品提案をする。